

# 資格検定室NEWS

将来の自分の立ち位置を見据えるためのNEWS LETTER



## *AI can't do, but I can.*

上記は、奈良県生駒市の平成30年度採用試験キャッチフレーズ。本校を卒業して、実社会で働くこととなる皆さんにも、「AIにはできなくても、私ならできる。」という自信を持った人材になって欲しい。人間としての前例に縛られない想像力と、臨機応変な対応力を持つこと。そして、常に向上心を持って自分を磨いていくことこそ今後益々大切になると思います。

トヨタ自動車の豊田章男社長は今年年頭示訓で「トヨタの看板がなくても、外で勝負できるプロを目指してください。どこでも戦える実力をつけた皆さんが、それでも働きたいと思ってもらえる環境を作り上げていきます」と述べています。企業の人材感も変化してきている様に感じます。

もう暫くすると、企業の就職面接が始まります。「志望の動機と自己PR」がキチンと述べられるでしょうか。就職を目指す本校3年生のような新卒高校生は、インターンシップに参加でもしていなければ職業経験がない訳ですから、高校時代に打ち込んだことや、性格的な長所のPRから、話し始めるしかないでしょう。応募企業、志望職種に対して、自分がなぜその仕事に就きたいと思ひ、何をやり遂げたいのかの熱意を話す。「御社の\*\*\*\*の仕事に大変興味があり、応募しました。しかし、仕事の経験がないので、入社後に与えられた仕事をがんばってやっていき、経験を積んで御社に貢献できる人材になりたいと思います。」と誠実に伝えることです。仕事の経験がない以上、基本的にはこれ以上は踏み込めません。応募する会社の事をきちんと調べ、具体的な業務内容や製品、サービスをしっかりと踏まえた回答が必要だと思ひます。

単に「がんばります。」だけでは、「なぜ、今、面接を受けている御社に入社したいのか。」「何をやってみたいのか。」が伝わりません。同業他社でも使えるような、通り一辺倒な、一般的な回答をするのではなく、その会社に特有な固有名詞、例えば「自動車の製造がしたいから」ではなく、「私は御社の『ニンバス500』という車が好きです。他社にない四つ目のヘッドライトデザインや、天井にも収納スペースを確保した室内空間設計が優れていると思ひます。ぜひその車を作る会社の一員になりたいと思ひ、御社を志望しました。」と伝えることが肝要だと思ひます。

人事が面接で知りたいことなどの情報は溢れていますが、大切なのは「自分をキチンと表現する。」ことです。会社が特定できないような一般的な面接の受け答えでは、あなたの気持ちを伝えられません。